

【歯科衛生士シンポジウム】

歯科衛生士が顕微鏡を使う意義はたいへん大きなものがある事に疑う余地はありません。例えばブローピングやスケーリングに顕微鏡を用いると、肉眼では知る事もできなかった実態に気づくものです。

しかしその使いこなしのハードルは決して低くはなく、歯科医師と同様にそれなりの練習や慣れが必要です。また診療アシストや顕微鏡治療に必要な特殊器具の整備など、歯科衛生士がかかわる業務は多岐にわたります。

このシンポジウムではすでに顕微鏡を日常的にお使いの3名の歯科衛生士の先生にご登壇いただき、顕微鏡を使う事の喜びや苦勞などを自由に語っていただきます。

歯科衛生士ならではの顕微鏡活用のノウハウを多くの人と共有し、この輪がさらに広がって行く事を願いこのシンポジウムを企画しました。討論の時間もございますので、会場からの活発なご意見・ご質問もお待ちしております。きっと明日からの臨床がさらに楽しくなる事でしょう。

コーディネーター 吉田歯科診療室デンタルメンテナンスクリニック 吉田格

1. 歯科用顕微鏡を使い始めて

Advanced Care Dr.Iritani's Dental Office 東京都墨田区

戸田奈緒美

略歴：1993年 鶴見大学女子短期大学部卒

2011年 Advanced Care Dr.Iritani's Dental Office 勤務

顕微鏡使用歴：半年



発表概略：

私が歯科用顕微鏡を臨床で用いるようになり半年が経過しました。

歯科衛生士も歯科医師と同じ目線で診療を行う必要があるとの考えから、医院の方針により半年前に歯科用顕微鏡が導入されました。

歯科用顕微鏡が導入された当初、私には歯科用顕微鏡で診療する事の不安や戸惑いそして葛藤がありました。

短い臨床経験ではありますが、歯科用顕微鏡を用いた診療に於いて苦勞した事や、活用法などを私の臨床を通してお話させて頂きたく存じます。

2. 大学病院における顕微鏡歯科治療に関わる歯科衛生士の役割と実践

日本大学松戸歯学部附属病院 永田恵実子

略歴：2002年 日本大学松戸歯学部附属歯科衛生専門学校卒業
2002年 日本大学松戸歯学部附属病院勤務 現在に至る
2007年 日本歯周病学会 認定歯科衛生士
2008年 歯科人間ドック コーディネーター
2010年 ホワイトニング コーディネーター



顕微鏡使用歴：3年

顕微鏡を使用した歯科診療は、今まで肉眼で見てきた世界とは格段の差があり、より細部まで確認でき、診療のレベルも向上しています。

予防処置時に歯科衛生士として顕微鏡を用いて録画することで、口腔内の現在の状況を詳細に説明することが可能であり、その結果、患者さんの予防歯科的モチベーションを上げることにとっても有効です。すなわち、患者さんの口腔内を健康に導くための役割は重要と考えます。

また、顕微鏡を用いた治療システムにおいては、アシスタントの仕方によって治療がスムーズに進まない事があり、術者が治療に集中できず、治療の成否に影響を与える場合があります。

今回は、私の配属となっている第Ⅱ総合診療室で行っている予防処置や診療補助での活用法など、大学病院に勤務する歯科衛生士として実際の症例を交えながら顕微鏡歯科治療でどのように関わっているか紹介したいと思います。

3. マイクロスコープを取り入れた私の臨床スタイル

カガミ歯科医院（大阪府） 大野真美

略歴：1992年 西日本歯科衛生士学院専門学校卒業
1999年 カガミ歯科医院勤務



顕微鏡使用歴：5年

マイクロスコープを日常的に使用するようになって、約5年が経ちました。そんな中、マイクロスコープを題材とした講演をさせて頂くこともあり、当院以外の様々な“声”を聞かせて頂く機会に恵まれました。

「1台しかないので、歯科衛生士は使わせてもらえない。」「どのような時に使えば良いのかよく分からない。」など、マイクロスコープが歯科衛生士に有効に使われていない現実が、そこにはありました。

私が使い始めた頃、歯科衛生士でマイクロスコープを使う方が身近にいらっしゃいませんでした。そして1台からのスタートでした。何もかも手さぐりで、使う用途やタイミングを始め、部位別のポジショニングの確立から、モニターを使っただけのカウンセリングの方法にいたるまで、アイデアを出し、実践し、いかに臨床に活かすかを考え続けた5年でした。

そんな体験談を聞いて頂くことで、「もっとマイクロスコープと向き合ってみよう!」と思っただければ幸いです。